

世界ポリオ撲滅への道を切り開いた RI 第2580地区先人のあゆみ

2007/11/15

1978年5月

この年開催された国際ロータリー東京大会において、東京麹町 RC 山田彝(ツネ)会員がインド、タイ、パキスタンとアメリカ、カナダを結ぶ WCS フォーラムコーディネーターに指名されました。

1980-81年度

山田会員は、この年度に計画されたRIタイ難民キャンプ救済プロジェクトのボランティア募集に応募しました。(但し本プロジェクトはタイ国内の事件により中止。)

1981-82年度

RIは75周年の記念事業として、3H 計画(Health, Hunger and Humanit Grants: 保険、飢餓追放及び人間性尊重補助金)を発足していました。これは、その名の通り健康改善、飢餓救済、人間性向上を目的としたもので、各クラブや地区のレベルでは扱い切れないような国際規模のプロジェクトをその対象としたものです。ポリオ・プラス計画もその展開のひとつとして生まれたのです。これは WHO の一翼を担っての大計画で、世界中の幼児の健康を守る為にポリオのほか、麻疹、百日咳、ジフテリア、破傷風、結核の予防接種を推進する計画です。このポリオ・プラス運動の一環としての「インド麻疹免疫プロジェクト」の派遣ボランティアとして東京麹町ロータリークラブの山田彝・峰英二の両会員が選出され、ひと月余りにわたり、南インドで同プロジェクトの指導に奉仕されました。

1982年-83年度

東京麹町RCは、山田会員の南インドにおける奉仕活動についての報告と当時の松平 PG の個人的奉仕活動を基本に、同クラブの創立 15 周年の記念事業の一つとして「南インド・ポリオ免疫プロジェクト」を提唱し、100 万円を基金として拠出いたしました。

1983年-84年度

山田彝会員が第 258 地区の世界社会奉仕委員会の委員長に任命され、このプロジェクトを地区の最優先プロジェクトとして推進しました。東京麹町RCは、第320地区南インドマドラスRCと提携。9月には同地区内13クラブと第275地区も共同提唱クラブとして参加、一クラブのプロジェクトから地区運営のプロジェクトへと発展し、事業は地区に移管されました。またロータリー財団に、このプロジェクトの特別助成金を申請、10月、五万ドルが交付されました。

本年度の2月～3月にかけては、山田会員と峰会員がこのプロジェクトの為に三週間、南インドで奉仕。この間、東京麹町RCの寄贈による4500ドース(単位)のポリオワクチンが、両氏により現地の子供たちに接種されました。

1984年-85年度

本年度4月、この時には日本ユニセフ協会の協力を得て、多量のポリオ、はしかのワクチンを持ち再び山田、峰両会員が南インドで奉仕活動に従事されました。東京麹町RCは地区運営のプロジェクトとして発展した「南インド・ポリオ免疫プロジェクト」の交通費を同クラブの世界社会奉仕委員会の予算で負担するなど支援しました。

1985年－86年度

山田会員が再度、地区の世界社会奉仕委員長に、峰会員が同委員に選任され、当プロジェクトは国際ロータリーの3H 計画のプロジェクト、ポリオ・プラス計画の中で最優先順位に指定されました。本年度1月、山田会員が南インドで奉仕活動に従事されましたが、この頃より山田会員はポリオワクチンの保存状態への疑問を持ち始めたといわれます。ワクチンは、ある一定の温度で保存しなければ効果がなくなってしまうため、運ぶときの温度管理がとても大切になります。ワクチンの効果を保ちながら、子どもたちの元に届ける一連の流れ、またそのために必要な設備(具体的には冷凍庫やクーラーボックス、停電したときの発電機も含めて)は「コールドチェーン」と呼ばれ、当時のインドでは十分な整備が進んではいませんでした。

1986年－87年度

山田会員がRIポリオ・インターナショナルコーディネーターに就任。

1987年－88年度

山田会員の調査依頼に基づき、地区 WCS 委員会は同委員・那覇西 RC の大宜見齊会員と医師である那覇西 RC 大仲良一会員を南インドに派遣。両会員は3週間にわたる精力的な活動を行い「南インドにおけるポリオ・プラスおよびコールドチェーンの実態調査報告書」を提出されました。

1988年7月 東京麹町RC 山田彝会員 逝去

1989年6月 東京麹町RC 峰英二会員 逝去

故山田彝氏、故峰英二氏のお二人は早くからポリオの惨状に深い関心を寄せ、南インドでポリオに苦しむ子供達にポリオワクチンの供与を2回に亘り実施され、その状況をつぶさに報告されました。この報告がポリオ撲滅運動提唱の原動力となり、東京の2地区を通じ国際ロータリーのポリオ・プラス撲滅運動に発展致しました。

国際ロータリーは1986年7月から5年間に亘り、地球上からポリオ・麻疹・ジフテリア・結核・百日咳・破傷風等の撲滅を願い、1億2千万ドル(約200億円 日本担当分40億円)を目標として募金キャンペーンを実施し、1991年6月募金総額は2億1700万ドルに達し、当初の目標を遥かに越えてこのキャンペーンを終了しました。

これらのロータリーの活動がきっかけとなり、世界保健総会が 2000 年までにポリオを撲滅するという決議を採択し、世界ポリオ撲滅推進計画の発足への道が開かれました。世界ポリオ撲滅推進計画は、現在、国際ロータリー、世界保健機関(WHO)、ユニセフ、米国疾病予防センター(CDC)が主導団体となって推し進められています。

(本レポートは 2580 地区事務所内資料を参考に、国際ロータリーおよび東京麹町 RC ホームページなどより引用、編集させていただきました。)